



入学手続きを支える学生と DX

2026 年度入学手続き DX と学生ボランティアが支援

2026 年 8 月 19 日、20 日、日越大学はホアラックキャンパスで 2026 年入学の新入生を対象とする入学手続きを実施しました。今年は手続きをデジタル化・自動化し、新入生と保護者が受付で番号を受け取り、窓口ごとに案内される仕組みを導入しました。これにより、学生 1 人の手続きは約 3 分で完了し、待ち時間が大きく短縮されました。出願段階から蓄積した志願者情報も活用し、入学前から希望に応じた個別相談や案内を行いました。会場では、日越大学 T シャツを着た学生ボランティアが、受付、構内案内、書類確認、番号発行などを分担して新入生を支えました。手続きのデジタル化による効率化と、在学生によるきめ細かな支援が両輪となり、新入生と保護者の円滑な入学手続きが実現しました。日越大学は、入学時から学習者を中心に据えた利便性の高い運営を進めています。

今月号の内容

- 2026 年度入学手続き DX と学生ボランティアが支援
- 日 ASEAN 統合基金 (JAIF) が日越大学に奨学金を拠出、対象は博士課程にも拡大
- 先端工学・技術 学部・研究科代表団が大阪大学を訪問、ナノテクノロジー分野の教育・研究連携を協議
- 感覚科学の国際シンポジウム SPISE 2026 を共催
- 第 2 回ベトナム・日本半導体シンポジウム、ポスター発表者を募集！
- 日越大学プロジェクト TC2 の完了、日越大学の歩みを振り返り ■ 理系分野初となる博士課程 サステナビリティ科学・技術・環境プログラム（環境科学専攻）の学生募集を開始
- 人事往来
- 日越大学メールマガジンリニューアル

日 ASEAN 統合基金（JAIF）が日越大学に奨学金を拠出、対象は博士課程にも拡大

2026 年 7 月 22 日、日 ASEAN 統合基金（JAIF）により、日越大学の大学院生計 124 名分を支援するプロジェクトが承認されました。対象は 2026～2029 年に日越大学に入学する、ベトナム、カンボジア、ラオス、ミャンマー、東ティモール国籍の修士・博士課程の学生で、今回初めて博士課程の学生も対象となります。

カンボジア、ラオス、ミャンマー、東ティモールの学生には、各プログラム・各期で最も優秀な 1 名に学費・往復航空券・生活費を含む全額奨学金が支給され、4 期で計 28 名が対象となります。ベトナム人学生向けには学費支援型の奨学金 96 名分が用意されるほか、日本での約 1 カ月半のインターンシップにも 28 名分が支給されます。

本プロジェクトは、メコン地域を対象とした前身の奨学金事業を引き継ぐものです。前身事業ではベトナム、ラオス、ミャンマーから約 230 名が日越大学の修士課程 8 プログラムで学び、約 10%が博士課程に進学しました。また、修了生の 15%が国際機関・NGO・多国籍企業に、32%が教育・研究職に進みました。

先端工学・技術 学部・研究科代表団が大阪大学を訪問、ナノテクノロジー分野の教育・研究連携を協議

2026 年 8 月 6～11 日、日越大学の先端工学・技術 学部・研究科（FATE）代表団は森川良忠教授の招待で大阪大学を訪問しました。

滞在中、代表団は大阪大学の研究室を視察するとともに、同大学の研究者と、ナノテクノロジー、先端材料、半導体工学などの分野における教育・研究連携について意見を交わしました。また、日越大学の修士課程ナノテクノロジープログラム（MNT）への大阪大学教員の参画や、学生のインターンシップなど、今後の連携の可能性についても協議しました。

今回の訪問は、両大学がこれまで培ってきた協力関係を基盤に、教育・研究交流をさらに深める機会となりました。こうした交流を通じて、日越両国の学術連携と先端技術分野の人材育成への貢献が期待されます。



大阪大学にて

感覚科学の国際シンポジウム SPISE 2026 を共催

2026 年 7 月 27 日～8 月 1 日、ニャチャン大学で「アジア感覚・消費者科学シンポジウム（SPISE 2026）」が開催され、日越大学はホーチミン市国家大学工科大学、ハノイ工科大学、ニャチャン大学、フランスの Institut Agro Rennes-Angers、Institut Agro Dijon とともに共同主催者を務めました。学部食品工学と健康プログラム（EFTH）の学生も参加し、アラビカ種・ロブスタ種コーヒーの焙煎度別の感覚プロファイルなど、食品・飲料業界で用いられる評価手法を学びました。

日越大学は、脳波（EEG）を用いて感覚反応を定量的に捉える研究内容も紹介しました。研究グループは、オープンソースのソフトウェア開発キット（SDK）を備えた 6 電極の小型前頭部 EEG 機器の開発を目指し、基本味や香りに対する脳の反応、ショ糖とスクラロースの甘味知覚の違いなどを調べています。さらに、試飲時の顔の表情データを使い、アラビカ種とロブスタ種に対する感覚反応の違いを AI で分析する研究にも取り組むなど、感覚科学、脳神経科学、人工知能を横断する研究を進めています。



第 2 回ベトナム・日本半導体シンポジウム、ポスター発表者を募集！

日越大学と在日ベトナム知識人協会（AVIJ）は、2026 年 9 月 20 日から 23 日まで、ハノイで第 2 回ベトナム・日本半導体シンポジウム（VJSS-2026）を開催します。在日本ベトナム社会主義共和国大使館の後援のもと、半導体分野の研究者、大学関係者、企業の専門家、学生、政策担当者らが集まり、半導体の科学技術、教育、人材育成、産業に関する知見を共有します。

現在、シンポジウムでのポスター発表者を募集しています。研究者や企業関係者はもちろん、大学院生や若手研究者からの応募も歓迎されます。日越大学は、ベトナムと日本の研究者・企業・学生を結び、半導体人材育成と産学連携を促進する場として本シンポジウムを開催します。関心のある方はぜひご注目ください。

- VJSS-2026: <https://vjss2026.vju.ac.vn/>



Special Report

日越大学プロジェクト TC2 の完了、日越大学の歩みを振り返り

2015 年 4 月～2020 年 3 月まで実施した日越大学修士課程設立プロジェクトの後継案件として、2020 年 4 月から実施されていた日越大学教育・研究・運営能力向上プロジェクト(TC2)が 2026 年 8 月をもって完了します。今月号では、この TC2 期間の日越大学とプロジェクトの歩みを乾チーフアドバイザーに振り返っていただきました。

着任前、および着任時の日越大学の印象を教えてください。

私のハノイ赴任の 4 日後には、石破総理（当時）がミーディンキャンパスをご訪問になりました。前日まで試験対応が続いており、ご訪問の受け入れ準備が間に合うのかひやひやしていましたが、古田学長（当時）・オアイン副学長（当時）のリーダーシップのもと、お出迎えから学生との懇談まで滞りなく進められたことが印象に残っています。ご到着直前にはエレベーターが故障するハプニングもありましたが、担当者の迅速な対応で無事復旧しました。あのときはさすがに冷や汗をかきました。

現在の日越大学の印象を教えてください。

古田前学長の建学の志を継ぎながら、着実に発展していると感じています。オアイン学長を中心に、教育訓練省やベトナム国家大学ハノイ校（VNU）等からの急な要望にも迅速に対応しています。7 月の卒業式では、学部・修士合わせて 105 名が日越大学を巣立ちました。また、次年度の学部入学予定者は 600 名を上回っています。学生・教職員ともに増加する中、日越大学は VNU の中でも次第に中核的な存在になりつつあると感じています。日本からの要人訪問も多く、そうした受入れにも適切に対応しています。特に、オアイン学長の「日越大学は、日本とベトナムの共有財産である」という言葉が印象に残っています。

TC3（フェーズ 3）に向けての展望をお願いします。

TC1・TC2 では、JICA 本部と日本の幹事大学が契約を締結し、プログラムごとに支援を行ってきました。

TC3 からは、日越大学の自立的な発展を目指し、日越大学が主体的に策定した計画に基づいて、日本人教員による授業・研究・研修等の支援を、関係大学や先生方からの助言・指導を得ながら実施していきます。現在、日越大学の教職員、関係大学の先生方、JICA 本部とその仕組みづくりを進めています。ただ、9 月の開始時点からすべてが円滑に進むとは考えておらず、考え方の違いや誤解が、これまで築いてきた協力関係に影響することも懸念しています。だからこそ、ご懸念や改善のご提案がございましたら、ぜひいつでもご相談ください。皆様との対話を重ねながら、より良い仕組みをつくっていきたいと考えています。

本メルマガも、次のフェーズへの移行に合わせて形式を少し変更し、日越大学からの主体的な情報発信につなげていきたいと考えています。引き続きご愛読いただけますと幸いです。



理系分野初となる博士課程 サステナビリティ科学・技術・環境プログラム（環境科学専攻）の学生募集を開始

日越大学は、理系分野では初となる博士課程サステナビリティ科学・技術・環境プログラム DSTE（Doctoral Program in Sustainability Science, Technology and Environment）の学生募集を開始しました。本プログラムでは、教育・研究指導が英語で行われるため、ベトナム人学生だけでなく、日本を含む海外から博士号取得を目指す方にとっても参加しやすいプログラムとなっています。詳細については、日越大学公式サイトの募集要項をご確認ください。

公式サイト

- <https://vju.ac.vn/en/sustainability-science-technology-and-environment/>
- <https://vju.ac.vn/en/admission-to-the-doctoral-program-in-sustainability-science-technology-and-environment-major-environmental-science/>

[BRIDGE プログラム] 法政大学職員 今井 友子さんの研修受入 —昨年度参加者も運営を支援

8月5日から22日まで、日越大学が実施している大学職員交換研修プログラム

（Building Reciprocal Insights through Diverse Global Engagements, BRIDGE プログラム）の一環として、法政大学職員の今井 友子さんが日越大学に滞在しました。今回の研修は「理系教育の発展・共同研究推進」をテーマに掲げ、①研究開発推進・協力開発課での研究支援・国際連携に関する情報交換、②先端工学・技術学部・研究科

（FATE）での教学・研究運営に関する教職員との意見交換、③その他学生支援業務の視察を行いました。昨年度 BRIDGE プログラムに参加した日越大学職員が、今度は受入れ側として積極的に運営に関わり、

FATE の活動に関する情報交換、教職員へのインタビューなど研修活動のアレンジを行いました。BRIDGE プログラムを通じて築かれた人的なつながりが、翌年度の受入れや新たな交流につながり、研修参加者が次の交流の担い手となる循環が生まれています。日越大学では、こうした継続的な職員交流を通じて、日本の大学との大学間連携をさらに深めていきます。

関連記事: [昨年度の受入の様子（2025年8月）](#)、[昨年度の BRIDGE プログラム報告会（2026年1月）](#)



人事往来

【離任（2026年8月）】

桃木 至朗 : 学部運営・実施(文系分野)
齋藤 真美 : 日本語教育プログラム
日野 喜文 : 業務調整/質保証・研修

【再着任（TC3（2026年9月））】

乾 英二 : チーフアドバイザー
諸橋 美千代 : サブチーフアドバイザー
本多 敏 : 教育・研究・運営強化支援（「先端工学と技術」領域）
藤野 真也 : 教育・研究・運営強化支援（「学際社会科学と日本研究」領域）
山川 史 : 教育・研究・運営強化支援（日本語教育 1）
松井 孝浩 : 教育・研究・運営強化支援（日本語教育 3）
猪股 美佳 : コンソーシアム支援総括/教学部門・大学間連携
根岸 正実 : 産学連携/キャリア支援・広報
林田 隆之 : 業務調整/DX 推進

日越大学メールマガジンをリニューアルします

2017 年から配信してきた本メールマガジンは、TC3 の開始に伴いリニューアルします。今後は、日越大学が主体となって発信する情報を中心にお届けする予定です。現在、リニューアルに向けて準備を進めています。

■ 日越大学の情報発信

日越大学ホームページ

<https://vju.ac.vn/>

日越大学 Facebook

<https://www.facebook.com/vnu.vju/>

JICA プロジェクトページ（ODA 見える化サイト、メルマガのバックナンバーもこちらから）

<https://www.jica.go.jp/oda/project/1901195/index.html>

■ 産学連携・採用に関する問い合わせ

E-mail: cooperation@vju.ac.vn

■ メルマガに関するお問い合わせ

E-mail: mail.magazine@vju.ac.vn

JICA 日越大学教育・研究・運営能力向上プロジェクトメルマガ編集部

【メール配信停止・変更】

配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、上記問い合わせ先までメールにてご連絡ください。

JICA 日越大学教育・研究・運営能力向上プロジェクト